

令和 6 年度千葉県アレルギー疾患医療連絡協議会 意見等要旨
令和 6 年 1 0 月 2 2 日（火） 午後 6 時 3 0 分～午後 7 時 1 5 分
千葉県庁中庁舎 1 0 階大会議室（会場とオンラインのハイブリッド）

1 千葉県アレルギー疾患対策推進計画の進捗状況について

（１）説明

事務局から資料 1－1、1－2、1－3 について説明。

（２）委員意見等

○座長

千葉県アレルギー疾患対策推進計画の進捗状況について事務局から説明があったが、何か質問等はあるか。

受動喫煙について、まだ医療機関でもみられるということに違和感を覚えた。駐車場等含めての受動喫煙の報告と考えられる。気に留めておく必要がある。他に意見等はいかがか。

【意見なし】

2 千葉県アレルギー疾患医療拠点病院事業について

（１）説明

千葉大学医学部医学部附属病院（アレルギー疾患医療拠点病院） 委員から資料 2－1 について説明。

（２）委員意見等

○座長

千葉県アレルギー疾患対策推進計画では、正確な情報・知識の提供、人材の育成が大きな柱になっている。

拠点病院において様々な取り組みを行っているということだが、意見、質問等はあるか。

○委員

研修会に参加された方の地域は把握できるか。地域によって偏り等はあるか。

○委員

コメディカルについては評価していないが、学校や保健職の参加については、オンデマンド研修を含め、県内全域に一応行き届いてるとはとらえている。

医師の研修については評価が十分ではないため、地図上に示しながら確認をして進めていきたい。

○委員

確かに非常に重要な点だと思う。

参加が少ないところに対し、さらにアピールしていくことも大事だと思う。

○座長

他に意見等はいかがか。

【意見なし】

3 千葉県アレルギー疾患医療連携体制ネットワーク会議について

(1) 説明

事務局から資料2-2について説明。

(2) 委員意見等

○座長

人材の育成は、依然、課題として残っていると思う。専門の医師の育成以外に関連した様々な医療職、学校、保育園等の十分な指導が行われているかについても、課題があると思うが、拠点病院の方からはどうか。

○委員

人材育成はまだまだ不十分だと認識している。医師に関しても不十分であり、看護師に関しては実施しているがまだ不十分であると確認している。改革するのは、かなり難しい状況である。働き方改革等もあり、一人一人が頑張りすぎるわけにいかないという状況もある。限られた人数で実施しているというのが現状ではある。

○座長

特に人材としては専門ナース、PAE（小児アレルギーエデュケーター）等の育成も非常に重要だということが指摘されている。

○委員

アレルギー学会における新専門医制度への取り組み、体制が少しずつ変わってきており、良い動きが回り始めている。

○座長

他に意見等はいかがか。

○委員

PAE に関しては、インセンティブがないことが一番問題だと思う。政策的な面から何かアピールできるようになると、人材が増える考える。

○委員

診療報酬がつかないがゆえに院内の協力が得にくいことは基幹病院会議でも出ている。そこが整理されていくと、看護部としても使いやすくなる。

CAI（アレルギー療養指導士）の方も増やし、診療報酬につなげていくという全国的な動きもある。クリニックレベルで活躍している CAI もたくさんいる。まずは地域の中で、コメディカルの人たちが知識を持って活動に関われるような形になると良いと考えている。今年度、対面で、基幹病院である下志津病院を中心としてその周辺地域のクリニックの看護師等を対象に、スキンケアや吸入の正しい方法の研修会を20名程度で開催した。大変好評であり、今後もそういう取り組みを県内の様々な地域で行っていくことで、関心を持つ看護師等を増やしていくことで、県内全域の均てん化に繋がると考える。

○委員

看護職の動機づけが難しく、看護協会では去年まではアレルギーの内容を研修に入れていたが、人が集められないので今年度から中止している。拠点病院で実施しているアレルギーの研修について、広報をしているが、今後、もっと発信していこうと思う。

基幹病院について地区部会で発信し、学んでいけるような機会をつくれるように、頑張っていきたいと思う。

○委員

アレルギーに特化した人材育成というところはなかなかまだ進んでいないというところではある。

保育園でアレルギー症状だということをすぐ見抜き、近隣の小児科の先生つなぐことで命拾いをしたケースがある。患者へのファーストコンタクトは保育園等の職員であって、医療職に関わるのは、2段階目になると考える。現場の職員の知識に関する対策により、安心して過ごせる。

○委員

「地域」というのも1つのキーワードとして認識をしているところ。栄養士も、人材育成、教育というところに引き続きしっかり力を入れていきたい。

日本栄養士会もアレルギーの専門管理栄養士というのを作っているが、まだ全国的に見ても数が多くないところである。他職種の方にも見える化をすることも課題だということを認識した。栄養士会の中でも検討したいと考える。

○座長

医療職からの患者教育も非常に重要で、ぜひ拠点病院を中心に今後お願いしたい。

千葉県には拠点病院と基幹病院がある。連携についてクリアになっていない部分もあるため、今後ぜひ検討願いたい。

他に意見等はいかがか。

【意見なし】

4 その他

○委員

私が関係するアレルギー患者の会が年2回患者さん向けの講演会をしている。

次回を11月10日に予定している。先生方や皆様の力添えをいただいております、千葉県からの患者さんの参加者も多くなっている。勉強の場の一つとして今後も活用いただければと思う。

○委員

千葉アレルギーネットワークの資料を配布させていただいた。「アレルギー疾患の患者さんのための災害への備えと対応」という冊子で、災害対策についても検討していただいているところである。今後とも、こういった活動を続けていただきたいと思います。患者への啓発のご協力いただければと思う。

○座長

8月21日に厚生労働省のアレルギー疾患対策推進協議会が行われた。これまでのアレルギー疾患対策と、免疫アレルギー疾患研究10か年戦略の中間評価の年ということで、その2つのことが議題となった。

事業計画としては、すべての都道府県に地域拠点病院が設置されたということ、今年度の大きな事業として、アレルギーの治療と就労の両立支援についての取り組みについて、モデル病院、モデル地区が指定され、活動が始まっているということであった。また、今日も議題で出たように、知識の普及、人材育成というのは、決して十分に進んでいないこと、均てん化が本当に着実に進んでいるのか、ということが課題として指摘された。

免疫アレルギー疾患研究10か年戦略については、途中経過ではあるが、進んでいるとの評価が、出されていた。以上、報告である。

○委員

私どもの学会で、花粉症ゼロ作戦という2030年までに花粉症の重症化をゼロにするというようなキャンペーンを打ち出している。講演会、勉強会等実施している。アレルギー友の会であるとか、あとはこのチラシでもありますが千葉アレルギーネットワークのフードアラジーセミナーで、講義等を実施。

2030年まで続くので、講演会あるいは勉強会などで、需要があれば遠慮なく声をかけていただければ、花粉症の話をさせていただきたいと思う。

○座長

その他の意見等が無ければ、これで議事を終了する。